

1～4年次前期・選択

2単位・30時間

---

---

**【概要・目標】**

この講義では、哲学のうちで「倫理」と呼ばれる分野を扱います。わたしたちはふつう、よく生きたいと望んでいます。しかし、「よく生きる」とは、そもそもどういうことなのでしょう。「幸福」であることでしょうか？では、「幸福」とはどのようなことなのでしょう？また、自分の「幸福」と社会全体の正義との関係は？以上のような問題を考えるために、授業では、様々な倫理的な思考法、学説を紹介するとともに、具体的な状況を設定するので、その場合に実際にどのように考え行動するかを自分なりに考えてもらいたいと思います。

---

**【授業内容・スケジュール】**

1. イントロダクション
  2. 倫理と文化相対主義（善悪は文化によって異なるか）
  3. 倫理と文化相対主義（文化による葬儀の形式や生命観の相違）
  4. 倫理と文化相対主義（文化横断的な価値観の可能性）
  5. 功利主義の考え方（善とは「最大多数の最大幸福」を目指すこと）
  6. 功利主義の考え方（安楽死について）
  7. 功利主義の考え方（動物の権利について）
  8. カントの義務の倫理（善とは幸福を目指すことではなく義務を果たすこと）
  9. カントの義務の倫理（自殺はどうして道徳的に誤りか）
  10. 社会契約の理論（社会の成立は人々の契約による：古典的社会契約の理論）
  11. 社会契約の理論（ロールズの「無知のヴェール」と「正義」：現代の社会契約の理論）
  12. 徳の倫理（倫理的であるとはある種の性格（＝徳）をもっていること）
  13. ケアの倫理（善とはケアしケアされる関係にあること）
  14. 徳の倫理・ケアの倫理の特徴（行為か性格か・自律か依存か）
  15. まとめ
- 

**【評価】**

試験（90%）、授業への参加（ミニレポートを含む）（10%）

---

**【教科書】**

プリントを配布します。

---

**【推薦参考図書】**

ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』、古牧・次田訳、晃洋書房、2003年  
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』、鬼澤忍訳、早川書房、2010年

---

**【その他】**

メールアドレス      mappy0905@hotmail.co.jp